

普及センター



インターネットでオールカラーの記事が読めるよ！

いわてアグリベンチャーネット 普及センターもりおか

検索

第172号 平成29年1月4日発行
盛岡農業改良普及センター
盛岡市内丸11-1 盛岡地区合同庁舎
TEL 019-629-6726 FAX 019-629-6739



新年のご挨拶



平成29年の年頭に当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様には、当普及センターの農業普及事業の推進につきまして、多大な御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、去年の気象を振り返ってみますと、3月から5月は平年より気温が高く推移し、6月は梅雨の影響で日照時間が少なく、7月には気温が一時的に低い日もみられました。8月から9月は連続的な台風発生等による大雨や9月の記録的な高温となりました。特に8月30日に本県に上陸した台風10号は、岩泉町など沿岸部等を中心に記録的な大雨となり、人的被害のほか、住家や道路等に甚大な被害が発生しました。被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

このように気象変動の激しい年ではありましたが、盛岡地方の水稻の作況指数は103の「やや良」（北上川上流）となったほか、野菜や果実等の品質も概ね良好で、総じて農作物の出来の良い年となりました。これもひとえに状況に応じて的確に対応されてきた農業者の皆様をはじめ、関係者の皆様の努力の賜物であり、心から敬意を表します。

さて、2015年の農林業センサスの調査結果では、農業経営体の減少や高齢化が進行し続け、耕作放棄地も増加しています。また、国においては、平成30年から始まる米政策の転換や、収入保険制度の導入の動きなど、農業政策の変革期を迎えています。

このような中、地域農業・農村の振興に向けては、次世代にしっかりと継承できる農業経営の確立と、農村資源の維持保全とその活用が一層求められているものと考えております。

こうしたことから、当普及センターでは、「経営体質の強い担い手の確保育成」と「競争力に優れた産地づくり」を重点事項に掲げ、集落営農組織の法人化や認定農業者等の経営高度化、新規就農者の確保と経営安定化、青年農業者や女性農業者の育成、さらには農産物の加工・流通販売や産直活性化などの支援に取り組んでいきます。

また、県オリジナル米新品種「銀河のしずく」の高品質生産、麦・大豆の収量品質向上、野菜花きの新規栽培者の確保と技術向上、果樹の早期成園化、乳牛・和牛繁殖等の生産性向上など「産地力の強化」に向けた支援を進めていきます。

今後も、市町等関係機関や農業協同組合等農業団体と連携を密接に図りながら、普及活動を展開して参りますので、御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様の益々の御健勝と御多幸を祈念申し上げ、年頭に当たっての挨拶といたします。

盛岡農業改良普及センター所長 高橋則光

平成 28 年度技術実証の結果を御紹介します～水稻・花き～

水稻

「銀河のしずく」現地調査ほ（兼、水稻生育診断ほ）

- 1 調査ほ場・移植月日：雫石・5月20日、紫波・5月19日
- 2 収量・品質等調査結果

場所	品 種	精玄米重 (1.9 mm, kg/10a)			玄米千粒重(g)			玄米検査等級		玄米タンパク含量(%) (水分0%換算値)	
		本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	本年	平年
雫石町 長山 標高 199m	いわてっこ	606	660	91.8%	22.4	21.7	103.2%	1上	1下	7.1	—
	あきたこまち	557	606	91.9%	21.7	21.4	101.4%	1中	1中	7.3	—
	銀河のしずく	619	—	—	23.7	—	—	1中	—	6.9	—
紫波町 星山 標高 94m	あきたこまち	464	582	79.7%	21.5	21.9	98.2%	1上	1中	7.2	—
	銀河のしずく	665	—	—	22.8	—	—	1上	—	7.0	—
	ひとめぼれ	592	635	93.2%	23.1	22.9	100.9%	1中	1下	7.0	—

3 「銀河のしずく」調査結果の概要

「あきたこまち」と比較して収量は11～43%程度上回り、品質は同等、玄米タンパク含量は0.2%～0.4%低くなり、非常に良好な結果となった。

花き

アザミウマ類飛込み防止用光反射資材実証ほ

- 1 目的 ハウスへの飛込み被害が増加しているアザミウマ対策として、発消長を調査し、光反射資材（デュポンタイベック）による害虫侵入抑制を図る。

2 結果

(1) 発消長調査

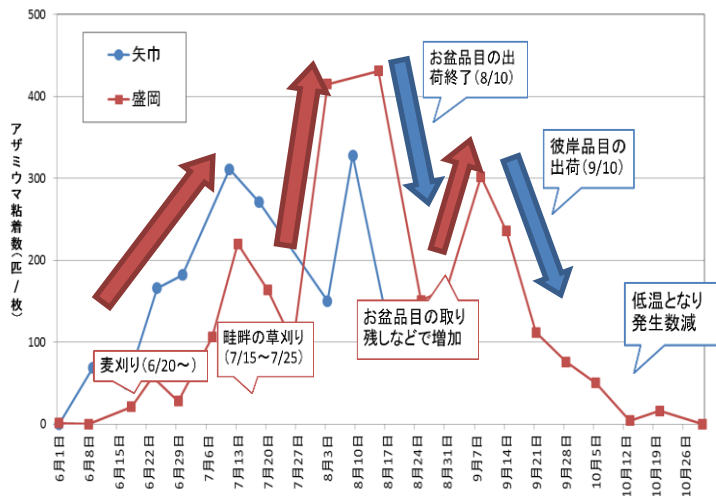


図1 盛岡市、矢巾町のハウス外のアザミウマの発生消長

- 7月中旬、8月上中旬、9月上旬に発生ピークあり。(図1)
- ほ場周辺では、麦の刈取り、畦畔の草刈りがあり、その都度発生量が増加した。

(2) 光反射資材の害虫進入抑制効果実証

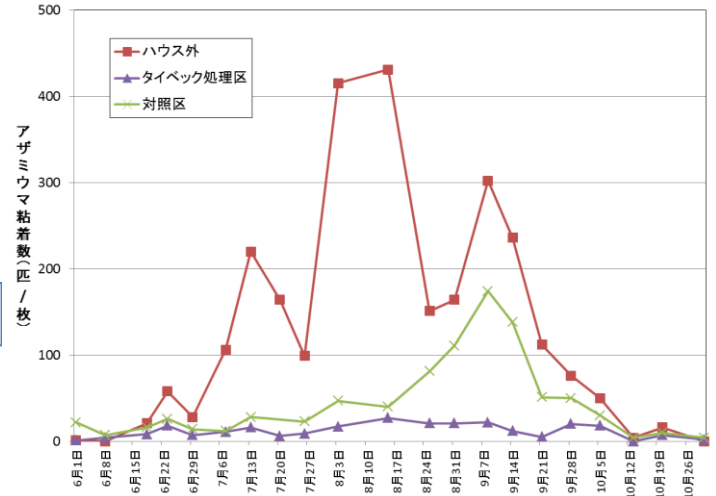


図2 タイベック敷布によるアザミウマ類侵入抑制効果

- タイベック処理区では、6～9月の全期間でハウス内でのアザミウマの発生を低密度に抑えた。(図2)
- 対照区では、8月～9月の捕殺数が増え花卉の脱色などの被害を受けた。